

平成 29 年 1 月 定例教育委員会々議録

1 日 時 平成 29 年 1 月 30 日 (月) 午後 1 時 30 分～

2 定例教育委員会

開催場所 会議室 101、102

3 出席委員の氏名

教 育 長	仲 野 孝	教育長職務代理者	齋 藤 和 夫
委 員	黒 川 優 子	委 員	山 崎 克 弥
委 員	中 野 信 男	委 員	秦 久美子

4 欠席委員の氏名 なし

5 説明のため出席した職員

教 育 次 長	山 田 公 一	主 幹	長 谷 川 智
学 校 教 育 課 長	堀 克 彦	子 育 て 支 援 課 長	宮 路 豊 行
社 会 教 育 課 長	宮 路 一 規	指 導 主 事	杵 淵 貢

6 本委員会書記

学校教育課 太 田 和 行 他 3 名

7 傍聴人

2 名

8 会議に付議した事件

諸報告

- (1) 行事報告及び行事予定
- (2) 教育長報告
- (3) 寄附報告

専決処分の報告について

報告第 1 号 共催・後援の教育長専決報告について

協議題

協議第 1 号 新規共催・後援申請について

その他

- (1) 平成 28 年度燕市幼稚園・こども園修了式、保育園卒園式、小・中学校卒業式の日程及び出席者（案）について
- (2) 平成 29 年第 1 回燕市議会臨時会（教育委員会関係抜粋）
 - 1) 平成 28 年度燕市一般会計補正予算（第 6 号）の概要について

会議録

別紙のとおり

1. 開 会 宣 言 午後1時30分～

2. 会議録署名委員の指名 黒 川 優 子 委 員

3. 諸報告

(1) 行事報告及び行事予定について

〈各課長が報告〉

(2) 教育長報告

〈仲野教育長が以下のとおり報告〉

1 はじめに

- 平成29年も教育委員会と学校や園が連携し、保護者や地域の皆様にもご協力をいただきながら、子どもたちの健やかな成長と社会教育がさらに充実するよう、酉年にちなんで飛躍の年になるよう努めたい。
- 学校や園では新年から概ね順調にスタートしたが、今月初めに開催した小・中学校長会では、児童生徒の中には長期休業明けに欠席がちになる子どももいるので、全職員で学校生活の様子を見守り、小さな変化であっても児童生徒との面談や保護者などへの情報提供を適切に行うよう指導した。
- インフルエンザの流行により、小中学校では学級閉鎖などの対応をしていただいた。学年閉鎖に発展する場合もあるので、早めの対応が必要である。

2 いじめに関する報道から(一部県教育委員会の「教育月報」から抜粋)

- 県内外でいじめに関する報道が相次いでおり、教育委員会の対応も話題となっている。市教育委員会としては、
 - ① 子どもの変化や日々の様子をしっかり見守る(いじめを見逃さない)
 - ② 教職員全員が組織として情報共有を図る(校内生徒指導体制の見直し)
 - ③ 小さな出来事でもいじめに繋がると想定されるものは報告する(いじめの認知)ことを1月の校長会であらためてお願いした。
- いじめの発見のきっかけは、小学校ではアンケート調査など学校の取組からの発見が、28.3%と最も多く、続いて保護者からの訴えが24.9%、児童本人からの訴えが22.3%となっている。
- 中学校では、生徒本人からの訴えが28.0%と最も多く、続いて保護者からの訴えが19.7%、アンケートなど学校の取組からの発見が16.7%である。
- 本人以外の児童生徒からの情報によるものが、小学校で126件(7.5%)、中学校では87件(7.6%)あり、本人の保護者以外の他の保護者からの情報によるも

のが、小学校では 39 件(2.3%)、中学校では 20 件(1.8%)である。

- いじめを受けた児童生徒の相談先で、全体に占める割合が最も多かったのは、学級担任(小 57.8%、中 44.8%)であり、続いて保護者や家族(小 25.7%、中 20.2%)であった。
- 小・中学校ともに、誰にも相談しなかった例が見られ、児童生徒本人が「相談するまでもない」と感じる程度の内容であった可能性もあるが、深刻ないじめであったり、羞恥心を伴ういじめであったりしたため相談できなかった可能性もあると分析されている。

3 1月の行事から報告

(1) 平成 28 年度「燕の学校教育・研修成果等報告会」(1月 17 日)

- 教育委員の皆様からもおいでいただき感謝する。市議会総務文教常任委員や、小・中学校の発展を願う市民の会、小中学校の校長、教頭、教諭、学校評議員、地域コーディネーターから参加があり、事務局を含め昨年の 99 人を大幅に上回る 130 人ほどの参加があった。
- 報告内容は、教員の県外視察研修、新潟大学とのパートナーシップ事業、つばめキッズファーム事業、Good Job つばめ推進事業におけるキャリア教育、ICTを活用した授業についてであった。
- 新規事業が概ねねらいにそって順調に進んでいることが確認できたとともに、様々な成果がでていることを広く知っていただける報告会となった。

(2) 新潟県体育協会表彰式(1月 21 日)

- 毎年行われている県体育協会の表彰式が新潟市で行われ、燕市体育協会の柴山義榮会長がスポーツ功労者賞を受賞した。
- 総合型スポーツクラブの全市展開の実現やスポーツの普及と健康づくりの推進基盤の構築などに大きく貢献したことによるものである。
- 同日、県体育協会が主催した創立 90 周年記念の講演会では、リオデジャネイロオリンピックに出場し、48 kg級ウエイトリフティングで銅メダルを獲得した三宅宏美選手と、監督で実父でもある三宅義行氏の講演会もあった。

(3) スポーツ指導者講習会(1月 28 日)

- ミズノビクトリークリニックの一環として、アジアの鉄人と呼ばれ、オリンピック 4 大会連続出場、アジア大会 5 大会連続優勝、日本選手権で 12 回優勝(含む 10 連勝)されたハンマー投げの室伏重信氏の講演があった。
- アイデアは円のように 360 度あり、自己の問題点を見つけながら方向を変えて取り組めば可能性は高まることなどについて教示をいただいた。

(4) 第 10 回良寛書道展(1月 29 日)

- 冬の風物詩として定着したこの書道展も第 10 回の区切りとなった。
- 小学校 3 年生から中学校 3 年生まで合わせて 2,499 点の作品応募があり、

特選(27点)、準特選(51点)、金賞(175点)、銀賞(496点)、銅賞(744点)、佳作(497点)の1,493点を1月27日(金)から29日(日)まで吉田産業会館で展示した。

- これまで10回の書道展において、特選・準特選をポイント化し、最多得点の分水小学校と分水中学校を市長賞として、また、最多出品率(10年連続100%)の分水北小学校を教育長賞として表彰した。

4 入試の時期

- 1月15日(日)に燕中等教育学校の合格発表があり、志願者は111人で80人が合格した。そのうち燕市内の児童の合格者は36人とのことである。
- 中学校3年生の多くは公立と私立を併願する。多くの私立高校では、1月19日または20日に入試を実施し、合格発表も行われた。また、長岡工業高等専門学校でも1月24日に推薦入試が行われ、合格発表は明日31日である。
- 公立高校の入試は、特色化選抜が2月10日(金)に、一般選抜学力検査が3月7日(火)、学校独自検査が翌日の8日(水)に、欠員補充のための2次募集は3月23日に行われる。
- 1月定例校長会では、中学校3年間の集大成として最後まで諦めず、志望校へ進学できるよう叱咤激励と生徒の体調管理をお願いした。

○委員(山崎 克弥)

県はインフルエンザについて1月に入ってすぐ注意報を出した。燕市内の学級閉鎖の状況と予防接種の接種率を教えてください。

○学校教育課長(堀 克彦)

インフルエンザの状況に関しては、その都度、学校から報告をもらい、ホームページですべて公開している。現段階で小学校22学級、中学校4学級の合計26学級が学級閉鎖となっており、この一週間で急激に増加している。予防接種の関係については、今年はまだ確定した資料がないので、出来しだいお示ししたい。

○委員(山崎 克弥)

予防接種は実際のところは半分くらいなのか。奨励することは可能なのか。

○学校教育課長(堀 克彦)

平成27年6月の調査では、小学校77.1%、中学校60.0%で、全体では71.6%となっている。今年はまだ調査が継続中ということもあり示せる時がきたら情報提供をしたい。

○教育長（仲野 孝）

71.6%を高いとみるかどうかだが、予防接種は強制できないがなるべくインフルエンザに罹らないように奨励は行いたい。

○委員（山崎 克弥）

社会的には影響が大きく、職場にも波及してしまう。子どもが罹患したりすると会社を休むことになり、できれば強制はできないまでも奨励は行ってほしい。

長岡市は保育園から小学校、中学校と12月くらいから早めにインフルエンザが始まり、まだ学級閉鎖が続いているが、燕市の状況はどうなっているか。

○教育次長（山田 公一）

今年、燕市は12月の段階では1、2校だったが、年明けからは増え続けている。小学校から始まり、一週間前から中学校にも影響が出始めている。

○教育長（仲野 孝）

学校によっては学級閉鎖イコール学年閉鎖となっている学校もある。閉鎖する日数が増えると、その分補充授業を行わなければならないという課題もある。

（3）寄附報告

3件の寄附について

〈堀学校教育課長が報告〉

4. 専決処分の報告について

報告第1号 共催・後援の教育長専決報告について

2件の共催・後援について

〈堀学校教育課長が説明〉

5. 協議題

協議第1号 新規共催・後援申請について

2件の後援について

〈宮路社会教育課長が説明〉

○委員（齋藤 和夫）

2017年小学校バレーボール吉田大会は全県が対象ということか。

○社会教育課長（宮路 一規）

全県のスポーツ少年団が対象であり、今回の大会は 80 チームの参加となっている。

審議の結果、全員異議なく承認された。

6. その他

(1) 平成 28 年度燕市幼稚園・こども園修了式、保育園卒園式、小・中学校卒業式の日程及び出席者（案）について
〈堀学校教育課長が説明〉

(2) 平成 29 年度第 1 回燕市議会臨時会（教育委員会関係抜粋）

1) 平成 28 年度燕市一般会計補正予算（第 6 号）の概要について
〈堀学校教育課長が説明〉

○委員（中野 信男）

学校管理費（小学校費）について、普通教室の間に移動式のパーテーションがあるとのことだが、隣の教室の音などはどうなっているのか。

○学校教育課長（堀 克彦）

明らかに隣の部屋の音は聞こえるが、吉田南小学校は仕切りがすべてフリーとなっており、子どもたちはその環境に慣れている。

○教育次長（山田 公一）

改築した新しい学校は、廊下側の壁や窓、ドアがないといったオープンスペースのものが多くなっている。中学校には仕切りがあるが、小学校については仕切りがない。吉田南小学校、燕南小学校、吉田小学校が現在オープンスペースとなっている。

○委員（中野 信男）

オープンスペースの教室は色々研究されてメリットがあると思うが、隣の教室の音や声が聞こえるというデメリットの認識は持っているか。

○主幹（長谷川 智）

自分も以前オープンスペースの学校で勤務をしていた。最近の授業は学級ごとに別々に行くこともあるが、学年一緒に行くこともある。教室の机に座って行う

だけではなく、広がって色々な交流を行ったり、グループに分かれての授業もあるので、ひとつの狭い教室の中で静かに授業を受けるイメージではなく、皆で話し合ったりしながら活動することが多いため、このような造りは非常に使い勝手が良い。最初は少し隣の教室の音が気になったりするが、子どもたちはすぐに慣れ、集中する時は集中しており、それほど気にはしていない。

○委員（中野 信男）

最近はこのような形が増えてきているのか。

○主幹（長谷川 智）

一時は増えてきたが、最近は仕切りを動かせるような、さらに多目的に使用できるものも出てきている。

○委員（齋藤 和夫）

ある小学校が改築される際に勤務していたが、オープンスペースになって一番戸惑っていたのは先生の方だった。子どもたちには非常に使い勝手が良かった。先生が慣れれば非常に教育効果も上がると思う。さらに閉ざされた空間ではないので、先生の教室内での行動がみんなの目に止まり、その点では教育の様々な問題が起こらない方に動いているため、最近はオープンスペースの学校が増えているように感じる。

7 閉 会 午後2時21分

教 育 長 仲野 孝

会議録署名委員 黒川 優子

会議録調整者 竹田 亮子
